

令和6年8月5日

報道機関各位

青森県立美術館副館長

**AOMORI GOKAN アートフェス 2024 後期コレクション展
「生誕 100 年・没後 60 年 小島一郎 リターンズ」関連企画
講演会を開催します**

青森県立美術館では、令和6年8月11日（土）に AOMORI GOKAN アートフェス 2024 後期コレクション展「生誕 100 年・没後 60 年 小島一郎 リターンズ」の関連企画として、1963(昭和38)年に新潮社から出版された小島一郎の生前に刊行された唯一の写真集「詩・文・写真集『津軽』」を、日本近代文学が専門で地方の文化に深い考察を巡らせてきた森岡卓司先生(山形大学人文社会科学部教授)が、写真と文学の両面から『津軽』を読み解く講演会を開催します。

つきましては、講演会の実施概要を提供いたしますので、周知についてご協力くださいますようお願い申し上げます。

記

1 開催概要

- (1) 日時：令和6年8月11日（土）14:00－15:30
- (2) 会場：青森県立美術館シアター
- (3) 演題：「詩・文・写真集『津軽』を読む」
- (4) 講師：森岡卓司氏（山形大学人文社会科学部教授）
- (5) 入場無料・事前申込不要

2 添付資料

- ・講演会開催概要

報道機関用提出資料（連絡先）	
担 当	青森県立美術館 経営管理課 担当：櫻庭
電話番号	017-783-3000
アドレス	bijutsukan@pref.aomori.lg.jp
所属長	青森県立美術館 副館長 境谷 孝司

プレスリリース 2024.08.01

AOMORI GOKAN アートフェス 2024 アートフェス後期コレクション展

「生誕 100 年・没後 60 年 小島一郎 リターンズ」展関連企画【講演会】

1963(昭和 38)年に新潮社から出版された詩・文・写真集『津軽』は小島一郎の生前に刊行された唯一の写真集と言えるものです。『津軽』には小島の写真だけでなく同郷の小説家・石坂洋次郎による散文、方言詩人・高木恭造による詩も編まれています。『津軽』の写真と言葉には、作家たちそれぞれの故郷へ寄せる思いがあふれています。日本近代文学がご専門で地方の文化に深い考察を巡らせてきた森岡卓司先生が、写真と文学の両面から『津軽』を読み解きます。

2024 年 8 月 11 日(日) 14:00-15:30

演題:

「詩・文・写真集『津軽』を読む」

講師: 森岡卓司氏

(山形大学人文社会科学部教授)

場所: 青森県立美術館シアター

入場無料・事前申込不要



『津軽』書影: (左)外箱、(右)本体

外箱のカットは青森出身の版画家・関野準一郎が手がけている。

■ 森岡卓司 (もりおか たかし)

山形大学人文社会科学部教授

1972 年兵庫県神戸市生まれ。2003 年、東北大学大学院文学研究科博士課程単位取得退学、博士(文学)。山形短期大学講師、山形大学人文学部准教授等を経て現職。日本比較文学会理事、日本近代文学会評議員。主たる共編著に、『近代の夢と知性 文学・思想の昭和一〇年前後(1925~1945)』(翰林書房 2000 年 10 月)、『問題としての「アメリカ」 比較文学・比較文化の視点から』(晃洋書房 2020 年 8 月)等。谷崎潤一郎研究から出発したが、2010 年ころから東北を中心にした地方と文学との関わり、1940 年代に地方で展開された文化運動を研究の中心的なテーマにしており、関連の共編著として日本近代文学会東北支部編『東北近代文学事典』(勉誠出版 2013 年 5 月)、『一九四〇年代の〈東北〉表象 文学・文化運動・地方雑誌』(東北大学出版会 2018 年 10 月)など。共編著である石澤靖典・森岡卓司編『大正・昭和期における東北の写真文化』(山形大学人文社会科学部叢書 13)(山形大学人文社会科学部附属映像文化研究所 2021 年 3 月)には、講演内容に関連する論考「一九六〇年前後の〈東北〉表象と石坂洋次郎編『詩・文・写真集 津軽』」が収録されている。